

【記入例】 太枠で囲んだところのみ記入する

採用者給料査定書

平成9年1月1日以降の臨時的任用時の職員番号

職員番号
氏名
319367
和歌山 太郎

戸籍上の氏名を正確に記入する。 ※押印は不要

令和7年4月1日現在の満年齢

正規の修学年数を記入する

高等学校から記入、大学は専攻学科まで

留年、浪人の期間も職歴欄(1行目)に入れる

アルバイトか正式かを記入する
学生時のアルバイトは記入しない
同時にアルバイトを複数していた場合はどちらか一方を記入する

臨時的任用の場合は講師と記入する

非常勤講師で同じ期間に2校以上勤務した場合

非常勤講師の場合は、1週間あたりの授業時間数を記入する。

月1日の初任研補充も記入する

生年月日	昭和	平成	56年	8月	13日生	42歳
修学歴	学校名(学部・専攻学科)	卒業・修了年月	修学年数	学校名(学部・専攻学科)	卒業・修了年月	修学年数
	〇〇高等学校 普通科	H12年 3月 卒・修	3年		年 月 卒・修	年
	〇〇大学 〇〇学部〇〇学科	H17年 3月 卒・修	4年		年 月 卒・修	年
職歴	勤務場所(職務内容)	期 間	勤続年数			
	浪人	H12年 4月 ~ H13年 3月	1年 月			
	〇〇〇株式会社(正式)	H17年 4月 ~ H21年 3月	4年 月			
	〇〇小学校(講師)	H21年 4月 ~ H21年 7月	年 4月			
	在家庭	H21年 8月 ~ H21年 8月	年 1月			
	〇〇小学校(講師)	H21年 9月 ~ H22年 3月	年 7月			
	〇〇高等学校(非常勤講師 週2h)	H22年 4月 ~ H24年 3月	2年 月			
	〇〇高等学校(非常勤講師 週6h)		年 月			
	〇〇高等学校(非常勤講師 週8h)	H24年 4月 ~ H25年 3月	1年 月			
	〇〇高等学校(初任研補充 月1日)		年 月			
	〇〇中学校(講師)	H25年 4月 ~ H26年 3月	1年 月			
	在家庭	H26年 4月 ~ H27年 9月	1年 6月			
〇〇中学校(講師)	H27年 10月 ~ R 6年 3月	7年 6月				
合 計			19年 月			

- 1 職歴は、卒業から令和7年3月31日(令和7年4月以降作成の場合はその時点)まで、途切れることなく記入する。ただし、浪人は職歴として記入する。
- 2 月の途中まで在家庭で、その後、採用された場合、その月は採用の方に入れる。
- 3 月の途中で退職し、その後、在家庭の場合、その月は勤務の方に入れる。
- 4 月の途中で退職し、その月中に再び採用された場合、原則、その月は採用された方に入れる。
- 5 職歴を1枚に記入しきれない場合は、2枚目以降を用意し、続きを記入する。その際、全ての用紙に記入の上、右上をステープラー止める。